

大人は、いったいつになったら本腰をあげるの！  
「国連子供環境ポスター」が発する子どもたちの危機感。



グローバル部門 最優秀賞  
シャーロット・サリバンさん (11歳 英国)

「これまで傘に隠されてきた地球の状況は今や表に現れてしまった」という着想になっている



グローバル部門 優秀賞  
ベトコヴァ・ポリナ・ズドラフコヴァさん (13歳 ブルガリア)

陸地の大半が水没し、人々も流され始めている



グローバル部門 優秀賞  
カテリーヌ・ニシチュクさん (12歳 ロシア)  
上位入賞の中では唯一、ユニークで色彩も  
明るめの作品だ

地球温暖化は、もはや深刻という段階を越えているという識者もいる。地球環境平和財団 (FGPE) では地球温暖化を含めた環境対策として、1991年から「国連子供環境ポスター原画コンテスト」を開催しているが、2007年度は例年以上にメッセージ性の高い作品が集まった。

世界中から寄せられる作品は18万点。温暖化の深刻化は応募の増加にも現れている。

上記左の絵を見ていただきたい。濁った空気を発生させる化石燃料の消費と地球温暖化。あえぐ地球を象徴する傘はひっくり返り、なすすべも無くうろたえる男性。この人影は世界中に蔓延している政府や企業の怠慢さを暗示していると作者はいう。その作者がまだ11歳のイギリスの少女であると聞いたら、ほとんどの人が驚くであろう。

地球環境平和財団が国連環境計画 (UNEP)、バイエル及びニコンとの共催で、世界中の子どもたちに呼びかけ、推進している「国連子供環境ポスター原画コンテスト」

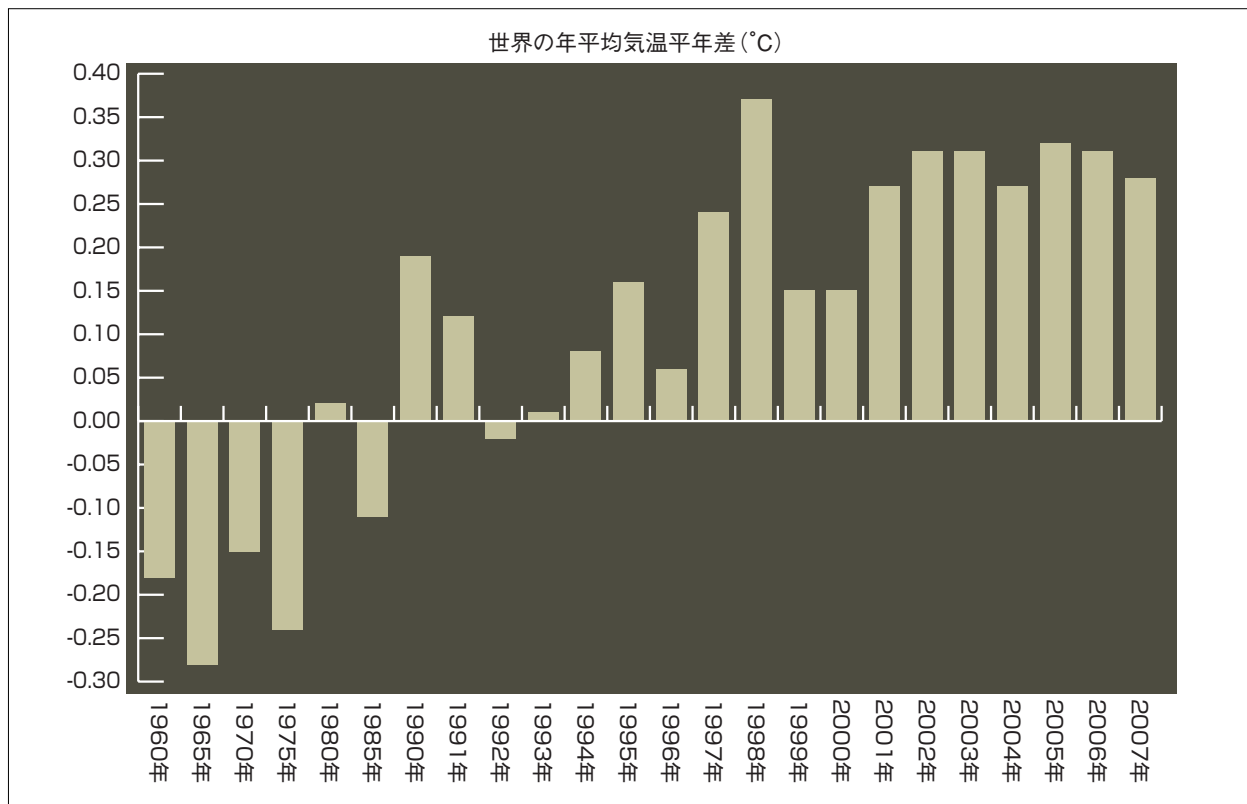
の2007年度のグローバル部門最優秀賞に選ばれたのがこの作品である。

テーマが地球温暖化であったとはいえ、どの作品も夢のない辛辣な色彩であることに気がつく。地球上のどこに暮らしていても、同じように温暖化が肌で感じとられ、子どもたちが危機感を募らせているということだろう。

このコンテストは1991年に地球環境平和財団の着想によって始まった。「かけがえのない地球を守ろう!」というメッセージを作品に込め、子どもたちを啓蒙していくのが目的である。今では100カ国以上の6歳～15歳あわせて18万人から作品が寄せられているという。各地で予選にかけられはするものの、それでも同財団の事務局には1万数千点の作品が集まるそうだ。

「といっても参加者の増加は温暖化が深刻化している現れでもあり、手放しでは喜ばませんね」と事務局長の矢野等子さんは語る。

事実、気象庁のデータによると、1993年以降、世界の年平均温度が平年を下回った月は一度もない。CO<sub>2</sub>の放出



1993年以降、世界全体の年平均気温が平年を下回ったことは一度もない

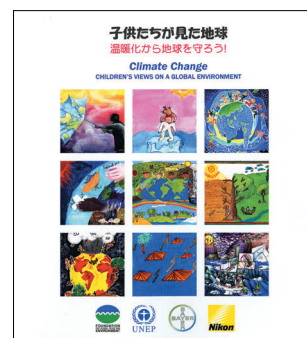
量も確実に増えてきている。

このコンテストで入賞した作品は世界各地で開催される「世界子供環境絵画展」に展示されるほか、Tシャツやポスター、カレンダー、小冊子などに使用される。最優秀作品を描いたシャーロット・サリバさんはその小冊子の中でこう語る。

「私たち全員が環境汚染から世界を守るために行動しなければなりません。地球温暖化についてみんなが真剣に考えて、私たちの行動がいかに地球上の繊細なエコシ

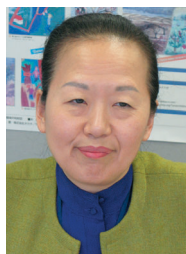
テムを破壊しているかを知って欲しいのです」

このページの作品にはどれも「大人たちは、いったいいつまでこの状況を放置すれば、本腰をあげるの」という悲鳴にも似たメッセージもこもっている。しばし、その声に耳をかたむけ、自分ができることを考えたい。



制作された絵本

●担当者より **今からできることを今始めましょう。**



このコンテストは絵の上手下手ではなく、メッセージ性が審査の対象になります。そのメッセージを伝えていくためさまざまなメディアを使用します。今回のAJOSCさんの助成もそこに活用させていただきます。「地球温暖化」抑制のために読者の皆さまにも、身近でできることをお願いしたいと思います。今からできることを今始めましょう。

地球環境平和財団(FGPE) 事務局長 **矢野等子さん**